

オジロワシ

Haliaeetus albicilla (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

選定理由

沿岸、河川、湖沼などの水界生態系の頂点に位置する大型のワシで、県内には冬鳥として数羽が越冬するのみである。

形態

全長約90cm。翼開長約2.2m。雄よりも雌が大きい。大型のワシで、翼は広大で尾は短く、ややくさび形である。成鳥の体は茶褐色で、頭から胸部にかけてクリーム褐色、尾羽は白い。幼鳥と若鳥は全身褐色で、尾羽は齢ごとに白色部が増す。くちばしと足は黄色。

国内分布

本州中部以北の河口や湖沼に冬鳥として渡来するが、九州や琉球列島まで南下することもある。北海道東部、北部で少数が繁殖している。

県内分布

県内の定期的な渡来地は、加賀市片野鴨池、手取川で毎年数羽が越冬する。そのほか、七尾西湾、河北潟、邑知潟、木場潟、柴山潟などの海岸や湖沼でも姿が見られることがある。また、大きな河川上流の山間部で見られることもある。

生態

北海道東部、北部の繁殖地では、広い原生林の続く湖沼畔や海岸にすみ、高木の枝上や海岸の断崖で営巣する。越冬地では海岸、河口、湖沼などにすみ、主に魚類を捕食する。片野鴨池で越冬する個体は、死んだり弱ったりしたガンカモ類を主な餌にしている。

生息地の条件

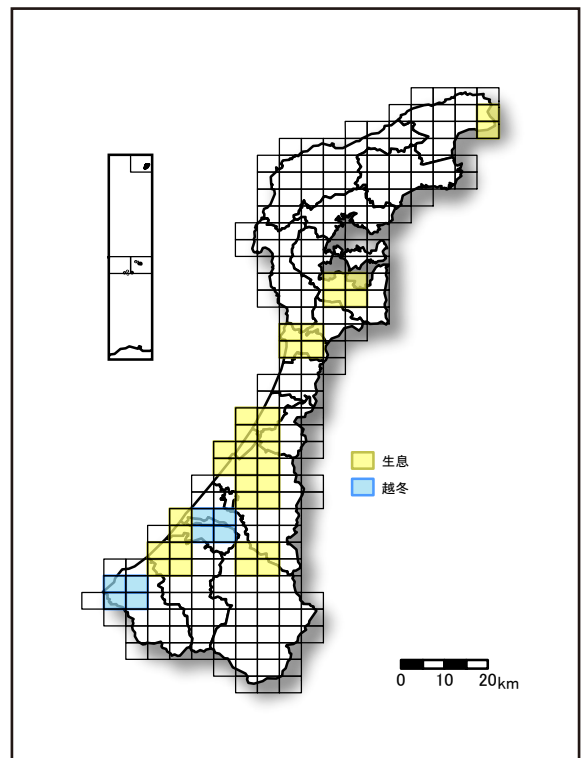
餌となる魚類や鳥類が豊富に生息し、汚染されていない水辺が餌場として存在すること。さらに、餌場から遠くない所に、外敵が近づかない安全なねぐらが存在すること。

生存の危機

水界生態系の頂点に位置するため、農薬などによる生物濃縮の悪影響を受けやすい。県内の定期的越冬地は2箇所しかなく、個体数も少ない。(A)

特記事項

国内希少野生動物種、国指定天然記念物。



県内の分布